

- てんかんと神経学 (Neurology)
- 慢性硬膜下血腫について
- え?こんなところに超音波? (その1)
- 医療福祉相談部通信 障害を負った場合の所得保障 (障害基礎年金とは)
- 院内消防避難訓練を行いました
- BLS 講習会
- 退任の挨拶

12月の風景  
広島  
ドミネーション

写真提供:広島県

当院では病院の1Fフロアで「FON」の無料インターネット接続サービスが利用できます。ご希望の方は医事課までお問い合わせください。

## てんかんと神経学 (Neurology)

副院長 脳神経内科 片岡 敏

てんかんはアルツハイマー病、脳血管障害などとともに頻度の高い中枢神経系疾患の1つである。WHOの調査では人口の1%を占める疾患で、10万人あたり80人以上が毎年新たなてんかんを発症し、特に小児期および高齢者で多くみられる。てんかんは英語ではepilepsyと表現されるが、これはギリシャ語起源でepilambaneinと同じ語源とされ、捕まえる (seize)、つかむ、襲うを意味し、てんかん発作 (seizure) はラテン語の"sacire"を起源とし主張、要求 (claim) を意味する。英国の現代てんかん学創始者であるジャクソン (John Hughling Jackson) はNeurology (神経学) をGeneral Medicineから区別し、"Father of English Neurology"と呼ばれているが、彼は1873年までにてんかんの定義を「時折、突然に、過剰急激に起こる局所の無秩序な電氣的放電により大脳皮質灰白質ニューロンが障害されて種々のてんかん発作症状を起こす発作性機能性疾患である」と定義した。一方で米国神経学の始祖はプットナム (Tracy J Putnam : 1894-1974)、メリット (Houston Merritt : 1902-1979) であるが、彼らは1938年にフェニトインがてんかん発作の抑制に有効なことを発見して、当時の神経疾患で治療可能なのはてんかんしかないと言った。神経学が進展した背景にはてんかんが治療可能な疾患であったことが大きく、神経学の歴史はてんかんとともに始まったといえる。



# 慢性硬膜下血腫について

脳神経外科医長 石井洋介

転んだりして頭を打撲したあと、しばらく（通常3週間～2ヶ月くらい）してから歩きにくい、頭が痛い、物忘れがひどい、といった症状がみられるようになることがあります。考えられる原因として主なものに慢性硬膜下血腫が挙げられます。

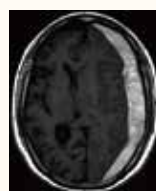
## 1. 慢性硬膜下血腫とは

慢性硬膜下血腫とは頭蓋骨の中にある脳を包んでいる硬い膜（硬膜）と脳との隙間に血腫が貯まる病気で血腫が脳を圧迫することにより様々な症状が起こってきます。原因は一般に頭部外傷ですが、本人も覚えていないような軽い外傷で起こることもありますし、稀に腫瘍などが原因で起こることもあります。脳と硬膜をつなぐ静脈の破綻による出血と髄液が混じった貯留液が皮膜を形成しながら成長するとされますが詳細は不明です。血液は通常、血管の外に出ると固まっていますが、慢性硬膜下血腫は固まらないのが特徴です。また高齢者やアルコール多飲者に多いという特徴もあります。



## 2. 慢性硬膜下血腫の診断

頭痛、片麻痺、記銘力低下、失語、意識障害などが徐々に進行する場合に本症を疑います。脳梗塞や認知症などと症状が似ているため間違われることがありますが、頭部打撲の既往があるときはこの疾患を疑うべきです。診断の確定にはCT、MRIなど画像診断が有効かつ必須です。



▲頭部 MRI



▲頭部 CT

## 3. 慢性硬膜下血腫の治療

血腫が小さい場合には自然に吸収されて治癒する事がありますが、大きくなって明らかに脳を圧迫している場合や症状が出現している場合には手術が必要となります。手術は、こめかみの少し上の骨に10円玉から500円玉くらいの大ささの穴をあけ、中に細いチューブを入れて血腫を排液します。さらに炎症を消退させるため血腫腔内を洗浄することもあります。



## 5. 終わりに

経過と症状から本疾患が疑われる場合には画像診断が必須です。正しく診断されて治療が行われれば、症状は完治する予後の良い疾患です。



# え?こんなところに超音波?(その1)

脳神経内科医長 向井智哉

皆さんは超音波検査についてご存知でしょうか?そうです。別名エコー検査と呼ばれる、あの検査です。「音波」を「超える」と書いて超音波ですが、特定の周波数の音をそのように呼ぶだけのことで、人間が聴くことの出来る音の周波数は20ヘルツから20キロヘルツであり、これより高い周波数のものを“超音波”と読んでいます。ヒト以外にも超音波を使用する動物は多数知られています。イルカは仲間との連絡をする際に、コウモリは餌を捕るときに超音波を使用することが知られています。ヒトが超音波を使用するようになったのは第一次世界大戦後であり、対潜水艦ソナーとしての使用が最初と言われています。なお、魚群探知機も超音波を使用しています。

現在では婦人科領域で胎児の状況を把握したり、循環器領域で心臓の動きを調べるのに使用される超音波ですが、医学領域で最初に応用されたのは人体頭部に対してであることはあまり知られていません。まだCTやMRIが無かった時代、脳の構造を知ろうと頭部に当てたのが始まりと言われています。超音波検査は体に対する負担が軽く、繰り返し行うことができるため、患者さんの状態を把握する上で有用です。

さて、当院では頸部血管エコーの他にも経食道心エコーなど、様々な超音波検査を行っています。次回からはそれぞれを概説したいと思います。

わたしたちが超音波検査を担当します。



医療福祉  
相談部通信

## 障害を負った場合の所得保障 (障害基礎年金とは)

医療福祉相談部 宮岡由英

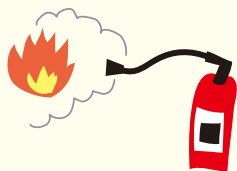
病気や事故により後遺症、障害を負ってしまい、働く事が難しくなった場合の所得保障の制度として、障害年金があります。

日本の年金制度は、国民年金から全ての国民に共通する基礎年金が支給され、厚生年金など被用者年金からは、基礎年金に上乘せされる報酬比例の年金が支給されるという、2階建ての年金給付のしくみをとっています。そのため、基本的には国民年金に加入している人(日本国民)が、加入している間に病気や事故により障害の状態となった時は、「障害基礎年金」を申請する権利があります。加入している、とは、保険料をきちんと納めたり、免除の手続きを行っている状態です。保険料を滞納していると、申請はできないことがあるので注意して下さい。(注:「日常生活や就労の面で困難が多くなった場合に受け取る年金(所得保障)」のため、老齢年金を受給している人は除外されます)

よく間違われるのですが、「身体障害者手帳」の制度とは全く別の制度のため、手帳の所持・等級は申請には無関係です。

ご自身やご家族が対象となるかどうかは、お住まいの各区役所に直接ご相談いただくか、医療相談員までお気軽にご相談下さい。

# 院内消防避難訓練を行いました



平成25年10月25日、  
当院にて消防避難訓練を行いました。

3階病棟を火元と想定し、初動対応、初期消火など非常時に迅速な行動がとれるよう、火災報知器・消火栓・消火器の適切な使用法、特性等の説明を受けながら、訓練を実施しました。

職員一同、より一層防災に対し意識を向上させてまいりたいと思います。



# BLS講習会



平成25年10月29日、全職員を対象に、今年度第1回BLS講習会を行いました。

※BLSとはBasic Life Support（一次救命処置）の略称です。患者さんが容体急変などで心肺停止状態に陥ってしまった時、医師や医療機器が揃うまでの即時対応として行われています。

シミュレータを使用し、バックバルブマスクを用いての用手換気、心臓マッサージを実習しました。最後に自動体外式除細動器（AED）の使用法の説明を臨床工学技士より受けました。



# 退任の挨拶

内科医として当院に在籍すること6年10か月でしたが、この度、10月末をもって退職致しました。この間、主として回復期リハビリ病棟を担当し、併設の老健施設「ひばり」の患者さんの治療にも関わりました。振り返って、大きなトラブルも事故もなく、平穩無事に日々が過ごせたことに安堵し、これもひとえに看護師・リハビリ部ほか、当院多職種スタッフ全員の優秀さと熱意に支えられてのことに違いないとあらためて気づき直し、みなさまにこころより感謝申し上げる次第です。急な退職で、患者の方々にも御迷惑をお掛けし恐縮ですが、どうぞ寛大に御容赦下さい。有難うございました。



内科 神尾昌則

医療法人 翠清会 梶川病院

TEL 082-249-6411  
FAX 082-244-7190

〒730-0046 広島市中区昭和町 8-20  
<http://www.suiseikai.jp>

